

自主臨床研究

臨床神経グループ

小児てんかんにおける抗てんかん薬の有用性の検討

研究の対象

2008年12月～2022年12月に当院小児科で、抗てんかん薬（ビガバトリン、ラモトリギン、レベチラセタム、ラコサミド、スチリペントール）やmTOR阻害剤の治療を受けられた方

研究目的・方法

近年、本邦で多くの新規抗てんかん薬が承認され、小児てんかんにおける有効性が期待されていますが、有効性、副作用について十分なデータの蓄積ができていません。今回、抗てんかん薬（ビガバトリン、ラモトリギン、レベチラセタム、ラコサミド、スチリペントール）やmTOR阻害剤の治療を受けている患者さんの臨床経過や検査結果を診療録より収集し、治療薬の有効性や副作用等を後方視的に検討します。

研究期間は、研究機関の長の許可日 ～ 西暦2022年12月31日。

研究に用いる試料・情報の種類

情報：年齢、性別、病歴、抗てんかん薬の治療歴、血液・尿検査、画像検査結果、治療薬の有効性、副作用等の発生状況 等

お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

大阪大学大学院医学研究科小児科学

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-2

TEL 06-6879-3932

下野 九理子（研究責任者）